

2013年度第4回環境工学委員会建築設備運営委員会 議事録

- 日時：2014年2月21日（金） 17：00-19：00
- 場所：建築会館（東京都港区）
- 出席者：郡公子、長井達夫、（長谷川巖）、（赤司泰義）、秋元孝之、石野久彌、（猪岡達夫）、
宇田川光弘、（岡建雄）、（川瀬貴晴）、古賀誉章、（小林陽一）、（坂上恭助）、佐々木邦治、
（佐野武仁）、清水昭浩、（高井啓明）、高草智、（仲野章生）、（中野淳太）、（二宮秀與）、
（野部達夫）、羽山広文、細淵勇人、（本間睦朗）、松本真一、（三浦克弘）、森川元樹、
（柳井崇）、横山計三、（吉田治典） （カッコ内は欠席）
- 配布資料
 1. 資料 4-1 建築設備運営委員会 2013年度第4回 議事次第
 2. 資料 4-2 建築設備運営委員会 2013年度第3回 議事録案
 3. 資料 4-3 2013年度第4回環境工学委員会議題
 4. 資料 4-4-1～4.4.6 小委員会活動成果報告書
 5. 資料 4-5 2014年度第10回建築設備シンポジウム計画案
 6. 資料 4-6 第5回建築設備運営委員会（札幌 3/16-17）スケジュール
 7. 資料 4-7-1 第3回気象データ小委員会 議事録(案)
 8. 資料 4-7-2 次世代排水システム小委員会 第10回議事録案
- 議題
 1. 前回議事録確認（資料 4-2）
 - ・1ページ目下から2行目、「研究所」→「研究者」、「細淵先生」→「細淵先生」にそれぞれ修正。
 - ・その他は承認された
 2. 委員の交替について
 - ・高草委員の退任、および後任の推薦が高草委員よりあり、承認された。
 3. 環境工学委員会報告（資料 4-3）
 - ・2013年度大会（北海道）パネルディスカッションで政府要人を招き、警備などの混乱が見られた
 - ・2014年度大会プログラム編成会議 4/22 に開催。関東在住の委員の積極的参加を依頼された
 - ・技術報告集委員会委員の推薦依頼が設備運営委員会に対してあった。
→長井を推薦する。
 - ・2014年度大会の若手顕彰制度について、運営委員会ごとに実施するかどうかを審議してほしい旨、依頼があった（「賞」ではない）
→ 建築設備運営委員会として実施する方針とする。ただし、運用を検討した結果、不実施とする可能性もある。
→ 「若手」の定義として30歳未満としてはどうか。ただし年齢確認などの問題がある
→ 顕彰は若手発表の10～15%程度が目安か
→ 司会・副司会にセッションごとに推薦してもらって、運営委員会内に選考委員会を設置して

審議してはどうか

→ 運営委員会ごとに運用がばらばらとなるのは現実的ではない。少なくとも、熱・空気・設備の分野で統一的な運用がなされることが望ましい。

4. 各小委員会の活動計画と報告（資料 4-4.1～4.4.6, 4-7-1, 4-7-2）

1) ヒューマンファクタに配慮した環境構築小委員会（横山委員、資料 4-4-1）

この間 1 回開催した。空調学会のパーソナル空調小委との合同開催とした。今年度は初年度で、情報収集および議論を行った。来年度はシンポジウムを計画している。

2) 建築気象データ小委員会（松本委員、資料 4-4-2、4-7-1）

30 年間分の気象データの整理に向けた検討、太陽光発電パネル向けの気象データ、UV-A, UV-B に関する検討などを行っている。年度末には 2001～2010 年のデータ作成を行う予定。

3) 環境設備に関する学会規準(AIJES)における性能レベル検討小委員会(森川委員、資料 4-4-3)

中小規模の建物を対象として、設計者が施主に対して設計レベルを提示し、施主が判断できるような規準、インターフェースを構築し、省エネに資することを目的として議論を行っている。最終的な成果としては出版等を考えている。

4) 次世代排水システム小委員会（古賀委員、資料 4-4-4、4-7-2）

この間、1 回開催した。来年度立ち上げる刊行委員会に関して報告・議論を行った。また、各 WG からの報告があり、各ガイドライン案について議論を行った。

年度の報告については、目標通り、ガイドラインの案が作成できた。

5) 環境建築システム小委員会（長井、資料 4-4-5）

この間、1 回開催した。病院についての設計事例について設計者より解説があった。年度の活動について、環境建築や設備技術に関する最新動向を収集し、出版を通じた情報発信に向けた準備を行った。

6) ガラス建築快適環境 WG（佐々木委員、資料 4-4-6）

この間 2 回開催した。意匠設計者からの情報収集を行った。コンテンツは揃ってきている。出版に関しての方向性も固めることができた。

5. 2014 年度第 10 回建築設備シンポジウム計画案（資料 4-5）

- ・ テーマ案として「設計と研究の視点からみる環境建築の発展」を考えている
- ・ 特別講演は第一部（話題の環境建築に学ぶ）、第二部（環境建築研究の進展）のそれぞれに設定する
- ・ 特別講演は 1 題 30 分、一般講演は 1 題 20 分ずつ（第一部、第二部とも）。
- ・ 引き続き、事例、発表者について継続審議することとする。

6. その他

7. 次回以降開催予定

3/16(日)-17(月) 北海道大学、他

以上